

# 『琵琶湖・淀川水系の水利用』を地図から見る

同志社香里中学校 湯浅博

『中学校社会科地図 初訂版』p.88⑥を見て、淀川について考えてみたい。

## (1) 流れ込む範囲が広い

播磨、伊勢の両平野を除く近畿の中央低地のほとんどが流域となる。下の表の流域面積のデータより、琵琶湖・淀川水系に流れ込む範囲が近畿の面積（約3.3万km<sup>2</sup>）の何分の1になるかを生徒に計算させる。

## (2) 利用している範囲

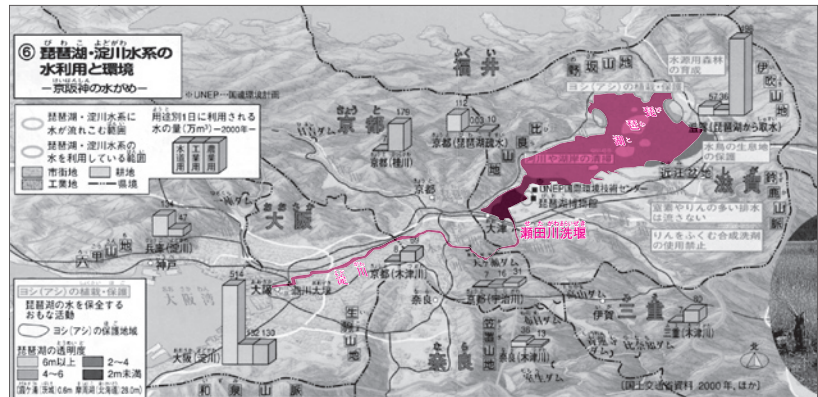
神戸市域も含まれるので、近畿で全く琵琶湖・淀川水系の水を利用していないのは、和歌山全域、兵庫北部・西部、京都北部、奈良南部、三重東部・南部となる。

## (3) 用途別1日に利用される水の量

上流部は農業用、中・下流域は水道用と利用がはっきり分かれている。

## (4) 水の調節

琵琶湖の水位は流出する川が一つであるので瀬田川の洗堰で管理され、宇治の天ヶ瀬ダ



『中学校社会科地図 初訂版』p.88

ムは洪水対策の役である。

## (5) 水の保全

水源林、ヨシ（アシ）の植栽など自然の力を利用したもののほか、早くから滋賀県で禁止していることを調べよう。

## (6) データ分析

淀川は長さの割りに流域面積が広い。流域面積÷河川の長さを求めると100を超える（日本の河川は、ほとんどが60以下）。年による差もあるが、年平均流量は利根川以上で、表のX、Yを生徒に調べさせれば、Xはラインに、Yは信濃に近い値になるだろう。

## (7) 琵琶湖の水位の変化

大雨のときは瀬田川の洗堰を全閉（戦後7回あった）、湖の最高水位が+100cmを超えた。これを回避する要請文を今年の初めに滋賀県が国に提出した。今後上下流域の利害対立となろう。

琵琶湖・淀川水系のデータ

河川名	流域面積 (km <sup>2</sup> )	長さ (km)	年平均流量 (m <sup>3</sup> /s)	流出率 (%)	河況係数 最大流量/最小流量
淀	8,240	75	259	X	Y (枚方大橋)
利根	16,840	322	235	93.4	1,782 (栗橋)
信濃	11,900	367	501	91.8	117 (小千谷)
ライン	224,000	1,320	不明	44.2	18 (バーゼル)

出典：『理科年表』（2006）ほか